

# 学 校 情 報

## 情報提供等への取組に関するガイドライン

- (1) 学校の概要、目標及び計画
  - 《 概要 》
  - 《 沿革 》
  - 《 学校の理念・ビジョン 》
  - 《 学校の特色 》
  - 《 教育目標 》
  - 《 運営方針 》
  - 《 授業計画 》
  - 《 成績評価 》
  - 《 卒業認定 》
  - 《 カリキュラム 》
- (2) 学科について
  - 《 入学者数及び在学者数 》
  - 《 教育課程 》
  - 《 学習の成果として様々なコンテストでの受賞 》
  - 《 卒業生数及び卒業後の進路状況 》
- (3) 教職員
  - 《 教職員数 》
  - 《 教職員の組織及び専門性 》
- (4) キャリア教育・実践的職業教育
  - 《 キャリア教育への取組状況 》
- (5) 様々な教育活動・教育環境
  - 《 教育活動 》
  - 《 教育環境 》
- (6) 学生の生活支援
  - 《 学生支援への取組状況 》
- (7) 学生募集・納付金及び就学支援
  - 《 学生募集 》
  - 《 学生納付金 》
- (8) 学校の財務
  - 《 資金収支計算書 》
  - 《 事業活動収支計算書 》
  - 《 損益計算書 》
  - 《 貸借対照表 》
  - 《 財産目録 》
  - 《 監事監査報告書 》
- (9) 学校評価
  - 《 自己点検結果 1 》
  - 《 自己点検結果 2 》
  - 《 自己点検結果 3 》
  - 《 自己点検結果 4 》
  - 《 学校関係者評価結果 1 》
  - 《 学校関係者評価結果 2 》
  - 《 学校関係者評価結果 3 》
- (10) 事業報告・その他
  - 《 事業報告書 》
  - 《 職業実践専門課程認定学科 》
  - 《 理事・役員名簿 》

## 情報提供等への取組に関するガイドライン

### (1) 学校の概要、目標及び計画

#### 《 概要 》

学校名 専門学校福岡ビジュアルアーツ・アカデミー  
校長名 大番 隆史  
設置者 学校法人21世紀アカデメイア  
代表職氏名 理事長 田坂 広志  
学校所在地 福岡市博多区博多駅前3-8-24

専門学校福岡ビジュアルアーツ・アカデミー（以下、本校という）は学校法人21世紀アカデメイア（以下、本学園という）理事長 田坂広志の「大学も専門学校も越える新たな学びの場」において、実社会で活躍する人材育成に則り、「写真学科」「放送・映画学科」「CG映像学科」「声優学科」「俳優学科」「音響学科」「ミュージッククリエイト学科」「マスコミ出版・芸能学科」の8学科を設置する映像音響の総合専門学校です。

#### 《 沿革 》

昭和43年 東京写真専門学校・九州校として開校  
昭和58年 学校法人 九州安達学園の認可  
（専門学校 九州デザイナー学院・映像音響専門課程として学科設置）  
平成 9年 専門学校 九州ビジュアルアーツ開校  
（専門学校 九州デザイナー学院より分離独立）  
平成29年 学校法人 Adachi学園と法人名変更（全国の学園グループ法人統一）  
令和6年 学校法人21世紀アカデメイアと法人名変更及び専門学校福岡ビジュアルアーツ・アカデミーと  
学校名変更

#### 《 学校の理念・ビジョン 》

本学園の教育理念では「卒業生に希望する企業や業界に就職できることではなく、活躍する人材になり、人生を拓くことを願って実社会に必要な①ファイブスター・プロフェッショナル②クロスオーバー・エキスパート③異文化グローバルリストという3つの人材への成長を支えるカリキュラムを準備し、「大学も専門学校も越える新たな学びの場」を目指し進化することです。

#### 《 学校の特色 》

本校の特色としては、本学園内に隣接する3校の姉妹校を有し、お互いの学校の専門性を活かしながらコラボレーションを通じて、コミュニケーション能力の向上がはかれる企業環境を自然に創出しているところでしょう。

#### 《 教育目標 》

教育基本法及び各法令に基づき、専門知識及び技術を享受して、学科ごとに異なる目標と進路を設定することにより、映像・音響・声優などのエキスパート・スキルを身に付け、クロス・オーバーの時間を設けることで他のエキスパートと協働できる人材育成を目指します。

#### 《 運営方針 》

立案としては、教育に関わる学校計画は教育部門及び学生募集の「学務部」、学園全体の予算計画を「事務局」、から持ち寄り、意見を交えた上で出された方針を基に、本学園の理事会での審議を受け、意思決定されたものが学校運営に活かされています。運営方針については各年度当初に開催される理事会で学園の運営方針が決定され、教職員に周知されます。運営方針に沿った各業務や教育活動が遂行され、報告、随時見直し検討がなされていきます。

#### 《 授業計画 》

年度開始前に、カリキュラム会議にて学校長、キャリア長、学務責任者、学科長および授業担当で2年間の教育スケジュールに基づきカリキュラムを作成する。各授業の到達目標、方法、評価のポイントを定めた後、授業担当者はシラバスの作成を行い、学科長、学校長の許可を得る。

#### 《 成績評価 》

成績は前期・後期の終了前に、試験・課題・実技試験・出席状況・授業態度などを考慮し、授業担当者が定められた各教科の評価ポイントに基づき成績を判定する。その後、学科長による授業担当者の評価確認を行い、最終的には学校長の確認の元で単位認定を行う。

成績はオリエンテーション時に学生本人へ公表し、保護者へ郵送する。評価が悪い学生には教科担当の教諭より指導がなされ補講・補修を行っている。

成績は以下のような5段階評価に基づく。

A=優秀 B=良い C=標準 D=不可(出席50%以上) E=不可(出席50%未満)

GAP評価制度による客観的な評価については学内で行う。

ポイント変換：A=4 B=3 C=2 D=1 E=0

算出方法：(全教科の評価ポイントの合計) ÷ 総単位数(履修登録単位の総数)

前期終了時と後期終了時にGPA評価を実施することで学習状況を把握する。

#### 《 卒業認定 》

卒業の認定方針については年度開始前に行われるカリキュラム会議にて、各学科の特性、業界で必要とされる知識やスキルを踏まえ卒業要件が決定される。

- ・卒業規定として学則に定める履修時間(卒業時1920時数)を履修していること
- ・94単位以上を取得していること
- ・学費を全納していること

なお、これらの卒業条件については学生と保護者へ入学時オリエンテーションにて案内している。

#### 《 カリキュラム 》

カリキュラムについては、校長、学務マネージャー、学科責任者のもとで体系的に編成されている。また毎年見直しを行い、業界の動向に沿った形で改編し業界の求める人材ニーズに応えられる学生を育成している。

キャリア教育科目を1年次より導入し「働く観」の育成を図っている。

また、学科目標業界のセミナーを年に数回実施する事により、具体的な仕事の理解を促している。

## 別表第1-1

## 映像音響専門課程 写真学科

必修・選択の別	授業科目	第1学年				第2学年				授業時数合計 (単位)	
		前期		後期		前期		後期			
		週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数		
必修	社会性検定	2	32	2	32					64	4
	フォトテクニック	4	64							64	4
	レタッチワーク			4	64					64	4
	写真ルーム	4	64	8	128					192	12
	キャリアワーク	2	32	2	32					64	4
	暗室ワーク	4	64							64	4
	スタジオワークⅠ	4	64	4	64					128	8
	写真史	4	64	4	64					128	8
	デジタルプリント	4	64							64	4
	ファインプリントⅠ			4	64					64	4
	ホームルームⅠ	2	32	2	32					64	4
選択	ホームルームⅡ					2	32	2	32	64	4
	キャリアプランニングⅠ	2	32							32	2
	キャリアプランニングⅡ			2	32					32	2
	ファインプリントⅡ					4	64			64	4
	ポートフォリオ制作					4	64	4	64	128	8
	写真・映像編集					4	64	4	64	128	8
	スタジオワークⅡ					4	64	4	64	128	8
	ロケーション撮影Ⅰ					4	64	4	64	128	8
	ロケーション撮影Ⅱ					2	32			32	2
	制作演習Ⅰ					2	32			32	2
	制作演習Ⅱ							2	32	32	2
	クリエイティブフォト							4	64	64	4
	写真作家研究					4	64	4	64	128	8
	写真映像作品研究					4	64	4	64	128	8
	企業研修			14	224	14	224	14	224	672	42
	短期留学									時数による	
必修科目履修時数		30	480	30	480	0	0	0	0	960	60
選択科目履修時数		0	0	0	0	30	480	30	480	960	60
卒業に必要な総履修時数		30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間以上を履修すること

※インターンシップは別に定める規定により必修選択科目の履修とみなす

## 別表第1-2

## 映像音響専門課程 放送・映画学科

必修・選択 の別	授業科目	第1学年				第2学年				授業時 数合計 (単位)	
		前期		後期		前期		後期			
		週間 授業 時数	年間 授業 時数	週間 授業 時数	年間 授業 時数	週間 授業 時数	年間 授業 時数	週間 授業 時数	年間 授業 時数		
必修	ノンリニア編集スキル	4	64	4	64					128	8
	CM企画演出I	4	64	4	64					128	8
	映像表現基礎	4	64	4	64					128	8
	映画制作基礎	4	64	4	64					128	8
	番組企画制作	4	64	4	64					128	8
	ストーリー構成	4	64	4	64					128	8
	映像照明技術Ⅰ	4	64	4	64					128	8
	映画史・映像論	2	32							32	2
選択	映像照明技術Ⅱ					4	64	4	64	128	8
	映像作品研究					4	64	4	64	128	8
	映像制作技術					4	64	4	64	128	8
	映像制作演出					4	64	4	64	128	8
	キャリアプランニングⅠ	2	32							32	2
	キャリアプランニングⅡ			2	32					32	2
	制作演習Ⅰ					2	32			32	2
	制作演習Ⅱ							2	32	32	2
	ホームルーム	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	リクルートナビゲーション	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	コピーライティング			2	32					32	2
	映画テクニカルワーク					4	64	4	64	128	8
	プリプロダクションワーク			2	32	4	64	2	32	128	8
	照明テクニカルワーク					2	32	4	64	96	6
	番組企画演出							4	64	64	4
	ポストプロダクションワーク			2	32	4	64			96	6
	映像ゼミナール							2	32	32	2
	ファイナルワークA							2	32	32	2
	ファイナルワークB							2	32	32	2
	ライフデザイン							2	32	32	2
企業研修			14	224	14	224	14	224	672	42	
短期留学									時数による		
必修科目履修時数		30	480	28	448	0	0	0	0	928	58
選択科目履修時数		0	0	2	32	30	480	30	480	992	62
卒業に必要な総履修時数		30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間以上を履修すること

※インターンシップは別に定める規定により必修選択科目の履修とみなす

## 別表第1-3

## 映像音響専門課程 CG映像学科

必修・選 択の別	授業科目	第1学年				第2学年				授業時 数合計 (単位)	
		前期		後期		前期		後期			
		週間 授業 時数	年間 授業 時数	週間 授業 時数	年間 授業 時数	週間 授業 時数	年間 授業 時数	週間 授業 時数	年間 授業 時数		
必修	映像コンセプトデザイン	4	64	4	64					128	8
	3DCG基礎A	4	64	4	64					128	8
	3DCG基礎B	4	64	4	64					128	8
	オペレーションスキル	4	64							64	4
	3DCGアニメーション	4	64							64	4
	デジタルデザイン	4	64	4	64					128	8
	デザイナーズオペレーション	4	64							64	4
	モーションデザイン			4	64					64	4
	コンポジット			4	64					64	4
	リクルートナビゲーション	2	32	2	32					64	4
選択	ホームルーム	2	32	2	32	2	32	2	32	128	8
	キャリアプランニングⅠ	2	32							32	2
	キャリアプランニングⅡ			2	32					32	2
	制作演習Ⅰ					2	32			32	2
	制作演習Ⅱ							2	32	32	2
	CG映像					4	64			64	4
	CG テクニカルワークA					4	64	4	64	128	8
	CG テクニカルワークB					4	64			64	4
	CG Final Work A							4	64	64	4
	CG Final Work B							4	64	64	4
	映像コンセプトデザイン上級					4	64	4	64	128	8
	ポートフォリオ制作					4	64			64	4
	コンテンツプロモーション					4	64	4	64	128	8
	ライフデザイン							4	64	64	4
	企業研修			14	224	14	224	14	224	672	42
	短期留学									時数による	
必修科目履修時数		30	480	26	416	0	0	0	0	896	56
選択科目履修時数		0	0	4	64	30	480	30	480	1024	64
卒業に必要な総履修時数		32	480	30	480	30	480	30	480	1920	120

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間以上を履修すること

※インターンシップは別に定める規定により必修選択科目の履修とみなす

## 別表第1-4

## 映像音響専門課程 俳優学科

必修・選択の別	授業科目	第1学年				第2学年				授業時数合計 (単位)	
		前期		後期		前期		後期			
		週間 授業 時数	年間 授業 時数	週間 授業 時数	年間 授業 時数	週間 授業 時数	年間 授業 時数	週間 授業 時数	年間 授業 時数		
必修	アクション基礎	2	32	2	32					64	4
	歌唱基礎	2	32	2	32					64	4
	スタッフワークI	2	32	2	32					64	4
	言語基礎	2	32	2	32					64	4
	俳優役者基礎	4	64	4	64					128	8
	身体表現	4	64	4	64					128	8
	演劇ゼミナル基礎	8	128	8	128					256	16
	ダンス基礎	2	32	2	32					64	4
	業界対策	2	32	2	32					64	4
	ホームルームI	2	32	2	32					64	4
選択	キャリアプランニングI	2	32							32	2
	キャリアプランニングII			2	32					32	2
	ホームルームII					2	32	2	32	64	4
	歌唱表現					2	32	2	32	64	4
	スタッフワークII					2	32	2	32	64	4
	ダンス表現					2	32	2	32	64	4
	制作演習I					2	32			32	2
	制作演習II							2	32	32	2
	演劇ゼミナル応用					8	128	8	128	256	16
	アクション応用					2	32	2	32	64	4
	言語表現					2	32	2	32	64	4
	俳優役者表現					4	64	4	64	128	8
	身体応用					4	64	4	64	128	8
	業界進出					2	32	2	32	64	4
	企業研修			14	224	14	224	14	224	672	42
短期留学									時数による		
必修科目履修時数		30	480	30	480	0	0	0	0	960	60
選択科目履修時数		0	0	0	0	30	480	30	480	960	60
卒業に必要な総履修時数		30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間以上を履修すること

※インターンシップは別に定める規定により必修選択科目の履修とみなす

別表第1-7

映像音響専門課程 声優学科

必修・選択の別	授業科目	第1学年				第2学年				授業時数合計 (単位)	
		前期		後期		前期		後期			
		週間 授業 時数	年間 授業 時数	週間 授業 時数	年間 授業 時数	週間 授業 時数	年間 授業 時数	週間 授業 時数	年間 授業 時数		
必修	声優演技基礎	4	64	4	64					128	8
	声優台本対策A	4	64	4	64					128	8
	声優台本対策B	4	64	4	64					128	8
	アフレコ基礎	4	64	4	64					128	8
	歌唱基礎	2	32	2	32					64	4
	発声基礎トレーニング	2	32	2	32					64	4
	業界対策	4	64	4	64					128	8
	ボディーワーク基礎	2	32	2	32					64	4
	言語基礎	2	32	2	32					64	4
	ホームルーム I	2	32	2	32					64	4
選択	キャリアプランニングⅠ	2	32							32	2
	キャリアプランニングⅡ			2	32					32	2
	ホームルームⅡ					2	32	2	32	64	4
	声優審査強化A					4	64	4	64	128	8
	声優審査強化B					4	64	4	64	128	8
	声優審査強化C					4	64	4	64	128	8
	ボディーワーク					2	32	2	32	64	4
	アフレコ表現					4	64	4	64	128	8
	ダンス表現					2	32	2	32	64	4
	歌唱表現					2	32	2	32	64	4
	業界進出					4	64	4	64	128	8
	言語表現					2	32	2	32	64	4
	制作演習Ⅰ					2	32			32	2
	制作演習Ⅱ							2	32	32	2
	企業研修			14	224	14	224	14	224	672	42
短期留学									時数による		
必修科目履修時数		30	480	30	480	0	0	0	0	960	60
選択科目履修時数		0	0	0	0	30	480	30	480	960	60
卒業に必要な総履修時数		30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間以上を履修すること

※インターンシップは別に定める規定により必修選択科目の履修とみなす



別表第1-6

映像音響専門課程 音響学科

必修・選択 の別	授業科目	第1学年				第2学年				授業時 数合計 (単位)	
		前期		後期		前期		後期			
		週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数	週間授 業時数	年間授 業時数		
必修	ホームルームⅠ	2	32	2	32					64	4
	デジタルベーシック	4	64	4	64					128	8
	リクルートⅠ	4	64	4	64					128	8
	リクルートⅡ					4	64	4	64	128	8
	音楽知識 基礎	4	64	4	64					128	8
	キャリアプランニングⅠ	2	32							32	2
	キャリアプランニングⅡ			2	32					32	2
	ビジネスマナー			4	64					64	4
	イベント制作実践			4	64	4	64	4	64	192	12
	ホームルームⅡ					2	32	2	32	64	4
	制作演習Ⅰ					2	32			32	2
制作演習Ⅱ							2	32	32	2	
選択 必修	ライブ音響基礎	4	64	4	64					128	8
	舞台照明基礎	4	64	4	64					128	8
	アイデアプランニング基礎	4	64	4	64					128	8
	PTオペレーション 基礎	4	64	4	64					128	8
選択	ベクターワークス			4	64					64	4
	照明実習Ⅰ	4	64	4	64					128	8
	PTオペレーションⅠ	4	64	4	64					128	8
	ITBミキシング 基礎	4	64	4	64					128	8
	スタジオワーク 基礎	8	128	8	128					256	16
	アンサンブルオペレート基礎	8	128	8	128					256	16
	PAスタッフワーク基礎	4	64	4	64					128	8
	舞台知識基礎	4	64	4	64					128	8
	検定対策	4	64							64	4
	機器概論			4	64					64	4
	PA基礎			4	64					64	4
	TV照明	4	64	4	64					128	8
	マネジメント基礎	4	64	4	64					128	8
	舞台知識	4	64	4	64					128	8
	デジタルベーシック	4	64	4	64					128	8
	PA実習Ⅱ					4	64	4	64	128	8
	照明実習Ⅱ					4	64	4	64	128	8
	マーケティング	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16
	PTオペレーションⅡ					4	64	4	64	128	8
	ライブ音響基礎演習					4	64	4	64	128	8
	ITBミキシング					4	64	4	64	128	8
	スタジオワーク					8	128	8	128	256	16
	PTオペレーション					4	64	4	64	128	8
	アンサンブルオペレート					8	128	8	128	256	16
	PAスタッフワーク					4	64	4	64	128	8
	舞台音響演習					4	64	4	64	128	8
	音響検定							4	64	64	4
	照明スタッフワーク					4	64	4	64	128	8
	照明デザイン					4	64	4	64	128	8
	舞台照明実習					4	64	4	64	128	8
	楽曲構成分析					4	64	4	64	128	8
照明検定							4	64	64	4	
Excel/Word					4	64	4	64	128	8	
企画制作実践					4	64	4	64	128	8	
舞台制作演習					4	64	4	64	128	8	
運営手法実践					4	64	4	64	128	8	
アイデアプランニング実践					4	64	4	64	128	8	
業界進出実践					4	64	4	64	128	8	
企業研修			14	224	14	224	14	224	672	42	
選択必修	舞台照明技術					4	64	4	64	128	8
必修科目履修時数		16	256	24	384	12	192	12	192	1024	64
選択必修科目履修時数		4	64	4	64	0	0	0	0	128	8
選択科目履修時数		10	160	2	32	18	288	18	288	768	48
卒業に必要な総履修時数		30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間以上を履修すること

※インターンシップは別に定める規定により必修選択科目の履修とみなす

※ライブ音響基礎、舞台照明基礎、アイデアプランニング基礎の内、必ず一つを選択し履修する

## 別表第1-8

## 映像音響専門課程 ミュージッククリエイト学科

必修・選択の別	授業科目	第1学年				第2学年				授業時数合計 (単位)	
		前期		後期		前期		後期			
		週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数	週間授業時数	年間授業時数		
必修	ホームルームⅠ	2	32	2	32					64	4
	アンサンブルテクニクⅠ	8	128	8	128					256	16
	コード基礎	4	64	4	64					128	8
	作編曲基礎	4	64	4	64					128	8
	音楽知識基礎	4	64	4	64					128	8
	キャリアプランニングⅠ	2	32							32	2
	キャリアプランニングⅡ			2	32					32	2
	ホームルームⅡ					2	32	2	32	64	4
	アンサンブルテクニクⅡ					8	128	8	128	256	16
	作品研究					4	64	4	64	128	8
選択	ボーカル基礎	8	128	8	128					256	16
	ギター基礎	8	128	8	128					256	16
	ベース基礎	8	128	8	128					256	16
	ドラム基礎	8	128	8	128					256	16
	キーボード基礎	8	128	8	128					256	16
	ソングライト 基礎	4	64	4	64					128	8
	ボーカル演習					8	128	8	128	256	16
	ギター演習					8	128	8	128	256	16
	ベース演習					8	128	8	128	256	16
	ドラム演習					8	128	8	128	256	16
	キーボード演習					8	128	8	128	256	16
	ソングライト					4	64	4	64	128	8
	作編曲演習					4	64	4	64	128	8
	制作演習Ⅰ					2	32			32	2
	制作演習Ⅱ							2	32	32	2
	企業研修			14	224	14	224	14	224	672	42
短期留学									時数による		
必修科目履修時数		24	384	24	384	14	224	14	224	1216	76
選択科目履修時数		6	96	6	96	16	256	16	256	704	44
卒業に必要な総履修時数		30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間以上を履修すること

※インターンシップは別に定める規定により必修選択科目の履修とみなす

## 別表第1-5

## 映像音響専門課程 マスコミ出版・芸能学科

必修・選択 の別	授業科目	第1学年				第2学年				授業時 数合計 (単位)	
		前期		後期		前期		後期			
		週間 授業 時数	年間 授業 時数	週間 授業 時数	年間 授業 時数	週間 授業 時数	年間 授業 時数	週間 授業 時数	年間 授業 時数		
必修	キャリアワーク	2	32	2	32					64	4
	業界概論	2	32	2	32					64	4
	著作権			2	32					32	2
	マーケティング	2	32							32	2
	ホームルームⅠ	2	32	2	32					64	4
	キャリアプランニングⅠ	2	32							32	2
	キャリアプランニングⅡ			2	32					32	2
	オフィス概論	2	32	2	32					64	4
	グラフィックデザイン	2	32	2	32					64	4
	音楽ビジネス	2	32	2	32					64	4
	DTP基礎	4	64							64	4
	マネジメント	4	64	4	64					128	8
選択	キャリアアップ					2	32	2	32	64	4
	ホームルームⅡ					2	32	2	32	64	4
	ライティングワーク	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16
	Web制作	4	64	4	64					128	8
	エディターワーク	2	32	4	64					96	6
	DTP演習					4	64	4	64	192	12
	取材・撮影演習	4	64							64	4
	イベント制作	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16
	番組制作	4	64	4	64	4	64	4	64	256	16
	プロモーション			4	64	4	64	4	64	192	12
	グループ制作			4	64			4	64	128	8
	業界研究ゼミナール			4	64	4	64	4	64	192	12
	音楽制作					4	64	4	64	128	8
	プレゼンテーション					2	32	2	32	64	4
	ディレクション演習					4	64			64	4
	制作演習Ⅰ					2	32			32	2
	制作演習Ⅱ							2	32	32	2
	デザイン研究					2	32			32	2
	プロデュース							2	32	32	2
	企業研修Ⅰ	4	64							64	4
	企業研修Ⅱ			4	64					64	4
企業研修Ⅲ					14	224			224	14	
企業研修Ⅳ							14	224	224	14	
短期留学										時数による	
必修科目履修時間	24	384	20	320	0	0	0	0	256	44	
選択科目履修時間	6	96	10	160	30	480	30	480	1664	76	
卒業に必要な総履修時数	30	480	30	480	30	480	30	480	1920	120	

※選択科目のうち「選択科目履修時数」に提示した時間以上を履修すること

※インターンシップは別に定める規定により必修選択科目の履修とみなす

## (2) 学科について

### 《 入学者数及び在学者数 》

令和5年度

全学科	修業年限	2年（昼間部）		
	入学定員	360名	入学者数	291名
	総定員	720名	在学者総数	571名

### 《 教育課程 》

映像・音響専門課程

### 《 学習の成果として取得を目指す資格等 》

認定資格	関係機関	資格内容
音響機構調整作業3級	職業能力開発協会	課題の音源について、セッティングやリハーサル、ミキシングなどの作業試験とCDに記録された音を使用した要素試験から成る。

※資格取得に関して、授業内や放課後にも指導を行っております。また、学内が試験会場に認定されていることから安心して受験することができます。

### 《 卒業生数及び卒業後の進路状況 》

平成5年度末（R6.3）	合計
卒業生数	259
関連分野就職者数	181
関連外分野就職者数	32
進学者数	1

## (3) 教職員

### 《 教職員数 》

令和6年度

	専任	兼任	合計
教員	21人	51人	72人
職員	7人	0人	7人
合計	28人	51人	79人

### 《 教職員の組織及び専門性 》

教員については担当する学科、専攻、担当科目に応じて専門性の高い教員を採用している。採用後も資格対策講座や業界セミナー、研修会への参加を積極的に促し教員のレベルアップを図っている。

それらに加えて、教員間の情報共有やコミュニケーションを円滑にする為に定期的に教員ミーティングプログラムを実施している。

また、校長、学務マネージャー、学科責任者による授業オブザーブも行っている。これらによって授業内容や教授法について各学科や学校全体で把握するとともに授業担当者にフィードバックし授業改善に利用している。

#### (4) キャリア教育・実践的職業教育

##### 《 キャリア教育への取組状況 》

課題提出や発表を繰り返し行うことで達成感や成功・失敗体験を実感させ、その成功や失敗から学ぶことで意義や役割および多様性を理解し、主体的に選択する能力を身につけています。

また、就職に対する体制として、主に「人材セールス」という就職専門スタッフと担任教諭によるダブルサポートを行っております。学生の就職意識を高めるためにインターンシップや専門分野のアルバイトなど在校中から現場を感じてもらえるよう心掛けています。

- ・1年次から就職指導の授業による指導（業界研究・面接指導・履歴書添削など）
- ・就職模擬面接の随時実施など就職課によるサポート
- ・資料閲覧や就職課スタッフによる進路指導の対応が可能な就職指導室の活用
- ・学校独自で企業を招き、就職業界セミナーの実施を通して学生の業界理解を推進する
- ・各学科による業界人や卒業生による講話の実施
- ・インターンシップによる職場体験の実施
- ・時間割の空きを利用し姉妹校の検定対策授業や語学などを選択することが可能

#### (5) 様々な教育活動・教育環境

##### 《 教育活動 》

業界で活躍している講師による指導のもと幅広い知識や技術を習得し、業界が求める人物像を育成しております。AO入学者は、夢の実現に向けて、将来の仕事を早期に決めていることを受け、入学前授業であるプレスクールを行っています。プレスクール参加や課題提出など『2.5年教育』と称し、確実に実績を結びつけています。

業界ニーズの把握については、就職担当者を始め教科担当者が学科目標業界・企業に直接働きかけ、意見をヒアリングし、キャリア長、学科責任者が、それぞれカリキュラムに反映させるようにしています。

また、講師会等を通じて学科ごとの目標と指導内容、指導方法、評価方法も明確にしています。さらに全教科の授業1コマ毎のシラバスを「コマシラバス」と呼んで、目的・内容・到達目標を学科毎に、責任者に提出する体制を整えています。授業シラバスについては、すべての科目について作成しています。

学生による授業評価は、前期と後期の年2回学生アンケートにより実施し、成績表を年2回送付しており、問題があれば保護者と連絡をとり改善に努めています。

「学外イベント」では、学生と業界関係者がイベント運営を行い、作品発表の機会を多く設け、対外的な活動を積極的に行っています。

##### 《 教育環境 》

実務からの経験と知識が備わっている人材を教員・講師として配置しております。

業界ニーズに合わせたカリキュラム構築の他、就職等の多様性から本学園の他学校や他学科の授業を受講できるよう「クロスオーバーフライデー」を導入しています。

施設・設備は、実習教室を始めすべての教育環境の見直しを年1回行っています。設備投資に関しては、事業計画（学校計画）に基づいて議論されます。教育理念と教育目標をそれを具現化したカリキュラムに沿った投資計画でなければなりません。学校毎の協議を経て、最終的に「理事会」で決済承認されます。施設・設備の更新に関しては計画を立て、進捗状況を把握して計画通りに進んでいる事を確認しています。

防災体制に関しては、学内で自衛消防団を組織し防災訓練を行うとともに、非常放送設備やスプリンクラー設備、防火扉など非常時に備えた設備点検を法令に基づき年2回実施いたしております。音響・映像専門課程において、設備や施設の整備は職業教育上、必要不可欠となります。最新の実務の知識を、教育内容に反映した教育を行うことが期待されていることから業界を見据えた設備設置も行っております。

## (6) 学生の生活支援

### 《 学生支援への取組状況 》

- ・入学時オリエンテーションにて「学習の手引き」に沿って伝達、指導を行う。  
(受講上の注意、通学方法、アルバイト時間、指導、休暇、欠席遅刻連絡方法、単位取得、卒業の規定、研修旅行、教育イベントスケジュールなど)
- ・学科担当者のスキルによってサポートにばらつきが出ないように、学生サポートチーム、リーダーを作った。出席関係の把握や学生面談などを行なっている。学生は学科の枠を超えて話しやすい教員に相談を持ちかけている。
- ・学期毎に学生アンケートを実施し、学びの状況や本人の周りの環境を把握し改善を図っている。
- ・カウンセラーによる相談窓口を設置しており、必要であればカウンセリングを受けられる。
- ・日本学生支援機構の奨学金（第1種・第2種・給付型）の説明や各種手続きなどの窓口として総合事務局を設置している。
- ・学習状況やアルバイト、進路相談など保護者と連携を取り学生の指導や支援を行うため保護者会の実施をしている。（年に1～2回）

## (7) 学生募集・納付金

### 《 学生募集 》

本校の学生募集活動では、学習内容・教育成果・卒業後の進路など正しい情報を分かりやすく伝えることに重点を置いております。より本校へ理解を深めてもらった上で進路の決定をしてもらうため、オープンキャンパスや体験入学、説明会をリモートに於いても開催いたしております。進学 mismatch を防ぐよう、保護者へも積極的に参加を勧めております。

### 《 学生納付金 》

令和4年度学費一覧

昼間部1学年次						
内訳	入学金	設備費	校友会費 団体保険料	前期授業料	後期授業料	1学年合計
全学科	100,000	299,000	12,000	435,000	435,000	1,281,000

◎分割納入の場合は入学金・設備費・校友会費・前期授業料の合計：846,000円を  
指定日までにご入金下さい。

昼間部2学年次					2年間総計
設備費	団体保険料	前期授業料	後期授業料	2学年合計	
299,000	2,000	435,000	435,000	1,171,000	2,452,000

◎分割納入の場合は設備費・前期授業料の合計：736,000円を  
指定日までにご入金下さい。

※学費は、一年分一括納入を原則としていますが、「授業料」のみ「前期（4月～9月）」「後期（10月～3月）」の2期に分けて納入する事も可能です。

※受験料・・・20,000円願書提出時に必要

※校友会特別奨学生の入学金は 全額免除

(8) 学校の財務

資金収支計算書

令和5年4月1日 から  
令和6年3月31日 まで

(単位：円)

	2023年度 令和5年度	
学生生徒等納付金収入	12,118,867,161	
手数料収入	139,169,360	
付随事業・収益事業収入	675,625,315	
雑収入	14,716,958	
借入金等収入	0	
前受金収入	9,830,657,645	
その他の収入	1,400,318,849	
資金収入調整勘定	-9,873,642,198	
前年度繰越支払資金	16,793,093,198	
収入の部合計	31,844,859,689	
人件費支出	3,559,738,002	
教育研究経費支出	2,535,145,134	
管理経費支出	3,107,915,567	
借入金等利息支出	569,748,787	
借入金等返済支出	600,000,000	
施設関係支出	861,513,882	
設備関係支出	554,368,772	
資産運用支出	0	
その他の支出	2,304,634,679	
資金支出調整勘定	-1,091,242,771	
翌年度繰越支払資金	18,843,037,637	
支出の部合計	31,844,859,689	

事業活動収支計算書

令和5年4月1日 から  
令和6年3月31日 まで

(単位：円)

	2023年度 (令和5年度)		
	予算	決算	差異
教育活動収支			
教育活動収入	13,484,390,000	13,018,700,957	465,689,043
学生生徒等納付金	12,524,085,000	12,118,867,161	405,217,839
手数料	146,688,000	139,169,360	7,518,640
その他	813,617,000	760,664,436	52,952,564
教育活動支出	10,848,226,000	10,312,901,490	535,324,510
人件費	3,547,848,000	3,582,408,202	-34,560,202
教育研究費	4,003,372,000	3,549,011,103	454,360,897
(減価償却費)	(1,028,024,000)	(1,009,111,418)	(18,912,582)
管理経費	3,297,006,000	3,176,365,285	120,640,715
(減価償却費)	(57,805,000)	(82,198,831)	(-24,393,831)
徴収不能額等	0	5,116,900	-5,116,900
教育活動収支差額	2,636,164,000	2,705,799,467	-69,635,467
教育活動外収支			
収入	337,000	673,211,370	-672,874,370
支出	620,000,000	577,920,687	42,079,313
経常収支差額	2,016,501,000	2,801,090,150	-784,589,150
特別収支			
収入	0	6,770,270	-6,770,270
支出	0	23,412,702	-23,412,702
基本金組入前当年度収支差額	2,016,501,000	2,784,447,718	-767,946,718
基本金組入額・取崩額	0	-513,430,098	513,430,098
当年度収支差額	2,016,501,000	2,271,017,620	-254,516,620

※ ( ) 内は、内数

## 損益計算書

収益事業

令和5年4月1日 から

令和6年3月31日 まで

(単位：円)

	2023年度 令和5年度
売上高	460,994,511
売上原価・販売費及び一般管理費	277,162,938
営業利益	183,831,573
営業外収益	2,287
営業外費用	24,048,802
経常利益	159,785,058
特別利益	1,828,600
特別損失	64,328,504
学校会計繰入前利益	97,285,154
当期純利益	-575,362,805

## 貸借対照表

公益・収益合算

令和6年3月31日

(単位：円)

	公益事業	収益事業	合計
資産合計	232,509,613,641	8,345,281,591	240,854,895,232
固定資産	213,546,973,656	7,861,078,576	221,408,052,232
流動資産	18,962,639,985	484,203,015	19,446,843,000
負債合計	41,158,029,557	273,276,487	41,431,306,044
固定負債	652,728,400	0	652,728,400
流動負債	40,505,301,157	273,276,487	40,778,577,644
(前受金)	(9,830,657,645)	(272,521,509)	(10,103,179,154)
純資産合計	191,351,584,084	8,072,005,104	199,423,589,188
公益事業勘定	0	26,685,652,984	26,685,652,984
基本金	211,638,755,496	0	211,638,755,496
消費差額累計または繰越利益	-20,287,171,412	-18,613,647,880	-38,900,819,292
(当期収支)	(2,784,447,718)	(0)	(2,784,447,718)
(当期利益)	(2,271,017,620)	(-575,362,805)	(1,695,654,815)
負債・純資産合計	232,509,613,641	8,345,281,591	240,854,895,232

※ ( ) 内は、内数

## 財産目録

令和6年3月31日

(単位：円)

	価 格
基本財産	183,712,562,210
校地	162,023,619,593
校舎	8,033,059,725
その他の土地	9,464,193,542
その他の建物及び設備	3,128,488,374
教具・校具・什器備品	1,063,200,976
運用財産	57,142,333,022
現金	7,713,149
預金	20,364,352,920
その他	36,770,266,953
負債	41,431,306,044
固定負債	652,728,400
流動負債	40,778,577,644
正味資産	199,423,589,188



監査報告書

令和6年5月31日

学校法人21世紀アカデミア  
理事会 御中  
評議員会 御中

学校法人21世紀アカデミア

監事 高野善生

監事 西村 実

私たちは、学校法人21世紀アカデミアの監事として、私立学校法第37条第4項および寄附行為第18条の定めに基づいて、同学園の令和5年度（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）における財産目録および計算書類（貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書、および収益事業に係る貸借対照表、損益計算書）を含め、学校法人の業務および財産に関し監査を行いました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務および財産に関する不正の行為または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

以上

## (9) 学校評価

自己点検結果(評価対象年度:令和4年度/評価年度:令和5年度)

本校では、学期末毎に行う学生アンケートを基に授業内容や設備投資などの改善・改良の指標としてまいりました。平成24年度からは文部科学省『専修学校における学校評価ガイドライン』を参考に評価項目を設定し、多岐に渡る着目点から点検することでの自己評価を提示に至っております。今後は、この学校自己評価の結果を活かし、更なる教育の質の向上をはかってまいります。

評価ポイント ( 5・・・大変適切 4・・・適切 3・・・ほぼ適切 2・・・やや不適切 1・・・不適切 )

( ⑤ → ④ は改善がはかれたとの評価 ④ → ③ は改悪となったとの評価 )

自己点検の項目ごとの評価ポイントです

基準1 教育理念・目的・育人人材等	自己評価					修正
1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか	⑤	④	3	2	1	
1-2 学校の特徴は何か	⑤	④	3	2	1	
1-3 学校の将来構想を抱いているか	⑤	④	3	2	1	
<p>学校の綱領は以下の通り明確にしている。</p> <p>○学校の教育理念</p> <p>「これから加速していく「第四次産業革命」、「人工知能革命」による市場、産業、社会の変化は、人材に求められる能力を、根本から変えていきます。その結果、これまでの「偏差値教育」で優秀と言われてきた人材も、AIに仕事を奪われることになります。この変革の嵐の中で、単に「知識」を教え、「学士」の資格を与えるだけの「大学」は、その存在意義を問われることとなります。一方で、それぞれの専門分野で、しっかりとスキルを身につけることのできる「専門学校」は、これからの時代に新たな注目を集めるでしょう。「21世紀アカデミア」は、2023年4月に、富士河口湖畔に「ファイブ・スター・プロフェッショナル研究所 (Institute for Five Stars Professional, 略称IFIS[アイフィス])」を設立しました。この研究所では、学生が「5つのプロフェッショナル力」を身につけるための、様々なカリキュラムの開発と普及を進めています。その願いを込め、我々は、「21世紀アカデミア」への進化の道を選びました。我々がめざすのは、「大学も専門学校も超える新たな学びの場」の創造です。」</p> <p>○学校の教育目的・育人人材像</p> <p>専門分野の「エキスパート・スキル」だけでなく、同時に、「5つのプロフェッショナル力」を身につけ、希望する企業や業界に「就職」することだけではなく、その就職した企業や業界で、「活躍」する人材になること。また、福岡市の経済の中心地、九州の交通の拠点でもある博多駅前の立地も特色としてあげられる。JRを始めバス等のアクセスの良さは通学の利便性はもちろん、就職活動にも効果を発揮している。</p> <p>学園の綱領(建学の理念、教育理念、教育目標、経営理念、経営目標)を踏まえ教育改革の推進と産学協同による実践的な教育の更なる質の向上を目指すとともに学校運営の安定を図って行きたい。</p>						
基準2 学校運営	自己評価					修正評価
2-4 運営方針は定められているか	5	④	3	2	1	
2-5 事業計画は定められているか	5	④	3	2	1	
2-6 運営方式や意思決定機能は、効率的なものになっているか	5	④	3	2	1	
2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	⑤	④	3	2	1	改悪
2-8 意思決定システムは確立されているか	5	④	3	2	1	
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5	④	3	2	1	
<p>毎年度、当初に開催される理事会で学園の運営方針が決定され、教職員に周知される。日常業務においては、エリアを超えた系統会議があり、募集活動や教育活動の報告、随時見直し検討が成されていく。事業計画は年度毎に各学校で作成される。これらは理事長、校長ほか理事の承認を得て、年度当初の各校全体会議において教職員に発表され周知される。また、上記を要約した「事業計画」や「事業報告書」は毎年度末の理事会で決議した上で、私立学校法に従い5月末に整備し関係者から要請があった場合、閲覧に供している。運営組織については「組織図」において明確に示されている。学務部、広報部、事務局の各セクションは、常に業務計画に従ってそれぞれの業務を遂行し、かつ有機的に連携し機能している。「理事会」と「評議員会」は学校法人運営について定めた「21世紀アカデミア寄附行為」により、また責任者会議や各セクション会議など主要な会議はその他の規定により明確に位置づけられ定期的に開催し、それぞれの議案の審議にあたっている。以上のような組織運営体制は長年の実績があり、効率的であると判断出来る。教職員の就業および給与等の事項は、就業規則や給与規定において明確に定められている。年俸制の取り入れを行い、残業等のみならず残業時間の対応など、新たな給与システムの導入を図り、労基に定められた年間5日以上の有給取得を義務化。教員の専門性については、採用時に精査しているが、経年変化による教育効果の把握が課題で、今後は実績についての本人の申告、資格取得、研修受講、校内の授業評価、学校運営への貢献度等により定期的に個人面談を含め、十分把握出来るシステムを導入。「組織図」によって業務内容・範囲の基本が示されており、各事案の立案や報告は各セクションの責任者に於いて文書化。それらは、学校長の承認を得て確定事項となる。また、特に重要な案件や新規案件、大規模な変更があった事項等は、稟議システムで具申し、検討を重ねて学園本部に付議され、結果が関係者に周知される。情報システムについては、学園基幹システムの構築と運用サポート全般を担うセクションを設け、学籍・成績・出欠・学費等を統括管理する学生管理システムを独自に構築している。学校管理業務用には給与管理システム、財務管理等も整備し、業務の効率化を図っている。</p>						

基準3 教育活動	自己評価					修正評価
3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界のニーズに向けて正しく方向づけされているか	5	④	3	2	1	
3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	⑤	4	③	2	1	改悪
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	5	④	③	2	1	改悪
3-13 各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けされているか	5	④	3	2	1	
3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	5	④	3	2	1	
3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	5	④	3	2	1	
3-16 教育目標に向け授業を行う事ができる要件を備えた教員を確保しているか	5	4	③	2	1	
3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	5	④	3	2	1	
3-18 資格取得の指導体制はあるか	5	④	3	2	1	

業界ニーズの把握については、就職担当者を始め、教科担当者が学科目標を業界・企業に直接働きかけ、意見をヒアリングし、キャリアリーダーや学務責任者がそれぞれカリキュラムに反映させるようにしている。各学科の修業年限に対応した教育レベルは校長、キャリアリーダー、学科責任者により設定され、学科会議等を通じて教員間で共有されている。その情報は、各教科の到達レベル設定に反映される。カリキュラムについては、校長、キャリアリーダー、学科責任者のもとで体系的に編成されている。また、毎年見直しを行い業界の動向に沿った形で改編し、業界の求める人材ニーズを見据えた教育の方向性を見出している。カリキュラム編成にあたっては、「専門学校設置基準」に基づき、各専攻とも授業実施時間数、期間、総時間数を設定している。演習科目については必要に応じて講義科目での解説時間を設けた上で配分している。現状業界の入り口に立つための教育レベルは明確に設定されているが、今後は各種業界で、より即戦力・即著名になるような質の向上を図っていかねばならない。専門スキルだけではなく、コミュニケーションスキルなど就職後に活躍できるための力を身につける必要がある。キャリア(就職指導部)を軸とした2.5年教育のストーリーを設定し、体系的編成の実施が必要である。授業シラバスについては、すべての科目について作成している。講師会等を通じて学科ごとの目標と指導内容、指導方法、評価方法も明確にしている。さらに全教科の授業1コマ毎のシラバスを「コマシラバス」と呼んで、目的・内容・到達目標を学科毎に責任者に提出する体制を整えている。カリキュラムは時代・業界が著しく変化する中で、毎年を設定を変化させていくことが必要。キャリア教育科目を1年次より導入し、学科目標については、業界のセミナーを年数回、実施する事により、具体的な仕事の理解を促している。全学科キャリア形成を見た上でのカリキュラム・教育方法を検討し、実施している。学生による授業評価は、前期と後期の年2回、学生アンケートにより実施している。また、校長、キャリアリーダー、学科責任者による授業オブザーブも行っている。これらによって 授業内容や教授法について各学科や学校全体で把握するとともに授業担当者にフィードバックし、授業改善に利用している。教員については担当する学科、専攻、担当科目に応じて、専門性の高い教員を採用している。採用後も資格対策講座や業界セミナー、研修会への参加を積極的に促し、教員のレベルアップを図っている。人権研修を定期的に行うことで、教員が学生に対する触れ合い方を確認し、過度な指導に入り過ぎないように、また、悩んでいる学生に適切な声かけができるような指導者づくりを心掛けている。成績評価・単位認定基準は明確に決まっており、学則や教員配布用の学校運営マニュアルに示されている。それに全学生に配布される「学習の手引き」にも詳細が記載されている。ビジネス校、観光校に於いては、資格・検定の取得の必要に応じて、学科ごとの目標としての必修検定・資格を設定している。資格の取得サポートに関しては、対策講座を実施している。

学校名が変更となり、新たな教育理念の浸透を教員へ実施し、新たにカリキュラムへ反映させる必要がある。

基準4 教育成果	自己評価					修正評価
4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	5	④	3	2	1	
4-20 資格取得率の向上が図られているか	5	4	③	2	1	
4-21 退学率の低減が図られているか	5	④	3	2	1	
4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	5	④	③	2	1	改悪

就職希望者の就職率は、4校では、ほぼ9割を超えており、学科専攻の学習内容、学生状況に応じた就職活動支援体制を整えている。担任と就職担当者が常に連携を取り、学生の就職活動をサポートすると同時に、進路ガイダンス、学内企業説明会、学内選考試験、面接試験対策・筆記試験対策・就職支援期間による学内ガイダンスなど就職支援行事を計画的に実施している。6年前より実施している業界EXPO等で、各校ともに就職率が大幅にアップした。資格取得の向上策として、試験受験時期に合わせ、全カリキュラムを対策にテーマ変更。必須科目以外でも選択授業で定期・不定期で検定取得のための対策講座を、無料で実施している。退学率については、出席不良者・成績不良者に対し年間を通じて補修・補講の体制や担任による欠席指導・学生のカウンセリング体制も整えている。基本的に無断欠席した場合は、担任が学生及び家庭に電話連絡を行っており、授業についていけない学生の補講や単位取得が難しい学生の補修体制も長期休暇中を中心に実施している。保護者との連絡も担任を通じて密に取るようにしており、保護者会、個別相談等を通じて家庭でのバックアップ体制のサポートも行っている卒業生が就職している企業訪問を重要視し、定期的に訪問を行って情報を収集している。

基準5 学生支援	自己評価					修正評価
5-23 就職に関する体制は整備されている	5	④	3	2	1	改悪
5-24 学生相談に関する体制は整備されているか	5	④	3	2	1	
5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備できているか	5	4	③	2	1	
5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	5	④	③	2	1	
5-27 保護者と適切に提携しているか	5	④	3	2	1	
5-28 卒業生への支援体制はあるか	5	4	③	2	1	

就職支援については、キャリア担当者が、年間を通じ学内企業説明会や学生への個別指導を実施している。なお、1年次よりキャリア教科目を全学科、全専攻履修するなど万全の支援体制を整えている。学生が抱える諸問題の解決に向けて教員研修として「カウンセリングスキル」を習得する為に実施するなど、学生相談体制の構築に日々努力している。精神的理由における退学理由が多いため、毎週2日間、心理カウンセラーの先生に来て頂いて、学生の心のケアが行える部屋を設置している。利用者は日に日に増えている現状がある。本校では、学生サポートチーム制を設け、日々の学生の出席状況、学習状況を常に把握すると同時に、定期・不定期で彼らの学生生活におけるあらゆる相談に応じる体制を整えている。学費の支払い方法の細かな相談体制を強化し、国からの給付型・貸与型の奨学金などが充実したことで、経済的な面での退学者は減少している。各種奨学金制度の学内案内・書類の取りまとめを実施し、奨学金担当者も常時配置している。

また、できる限り専門技術が発揮出来るアルバイトやインターンの紹介・指導を行っている。健康管理面においては、毎年1回の定期健康診断を実施し、疾病等の早期発見、早期の健康指導に勤めている。学生の健康を支援する為に「保健室」を設置して、軽度の疾病については対応出来る体制を整えている。留学生については学費、アルバイト、日常生活、就職などの諸問題について支援する留学生担当者をおいている。

学生寮に関しては、学校専用ではないが学生寮保有業者や信頼のおけるマンション斡旋業者と提携しており、遠隔地の入学希望者に対応している。時には、学生サポートチームが寮を訪問し、管理人を通じて学生の状況把握を行っている。保護者との連携については、担任を中心に、保護者会や授業体験を積極的に実施している。学校の運営や学生状況の共有を図っており、必要に応じて保護者との個人面談も実施している。その結果、保護者会参加者の満足度は高いと思われる。卒業生支援として、既卒者対象求人情報の提供や進路相談は随時実施している。

基準6 教育環境	自己評価					修正評価
6-29 施設設備は教育上必要性に十分対応できるよう整備されているか	5	④	3	2	1	
6-30 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	⑤	4	3	2	1	
6-31 防災に対する体制は整備されているか	5	④	3	2	1	

施設・設備は、実習教室を始め、すべての教育環境の見直しを年1回行っている。設備投資に関しては、事業計画(学校計画)に基づいて議論される。教育理念・教育目標、それを具現化したカリキュラムに沿った投資計画でなければならない。学校毎の協議を経て、最終的に「理事会」で決済承認される。施設・設備の更新に関しては計画を立て、進捗状況を把握して計画通りに進んでいる事を確認して、計画の立案と実施体制を整えている。企業及び提携期間と連携しながら、学外実習、インターンシップ、海外研修等の体制を整備・実施している。授業・研修等の実施前後に実施要領、報告書などを提出させ、カリキュラムや各専攻の目標との整合性を常に確認している。アメリカや韓国への留学生を排出できた。また、語学教育の重要性を説き、アメリカとオンラインによる個別の英会話の授業を開始した。防災については緊急時の体制を消防署の協力のもと、「自主消防隊」を組織化すると共に、必要な書類・機器を定期点検・整備している。なお、C館校舎に関して、旧耐震の建物であったことから、平成27年3月に耐力不足を補う耐震工事を行っている。

基準7 学生の募集と受け入れ	自己評価					修正評価
7-32 学生募集活動は、適正に行われているか	5	④	3	2	1	
7-33 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	5	4	③	2	1	
7-34 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか	5	④	3	2	1	
7-35 学納金は妥当なものとなっているか	5	④	3	2	1	

本校の学生募集活動の基本は、学習内容・教育成果・卒業後の進路などの正しい情報を分かり易く伝えることに重きを置いている。また、より深い理解のもとで進路を考えてもらうためにオープンキャンパスや説明会を実施。オンライン等の対応もコロナ禍以降継続して行っている。会場や高校での説明会がコロナ禍以前の回数に回復しつつある。入学選考については、高等学校の調査書に重きを置き、入学要項にその旨記載している。入学前授業に於いて入学希望者との時間を設けることで進路に対するミスマッチは防げていると思われる。

学納金については、理事会、評議員会において設備・機材・人材などの教育環境の維持向上に必要なかつ妥当であるか審議し決定している。

基準8 財務	自己評価					修正評価
8-36 中長期的に学校の財務基盤は安定しているものといえるか	5	④	3	2	1	改悪
8-37 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5	④	3	2	1	
8-38 財務について会計監査が適正に行なわれているか	⑤	④	3	2	1	
8-39 財務情報公開の体制整備はできているか	5	④	3	2	1	

学校全体での7年程度の財政状況の把握に努めている。毎年、剰余金を出すことで、自己資本比率を高め、基本金組入れ等を行い安定した学校法人会計を目指している。財政基盤の安定を判断する目安としてキャッシュフローの推移を参考にしている。中長期的な観点で、人件費や設備投資などビジョンを持って取り組んでいく必要がある。収支を図る上で、学生数の推移が収入に大きく影響することから、安定した学生数確保が財務基盤のポイントになると思われる。予算残高は、必要な科目について当該担当者が把握できるよう稟議制度とともにシステムが構築されており、逐次、発生する問題箇所は改善が加えられ、現在の強いシステムに至っている。予算については、各種規定に定められている。予算執行・予算管理システム・稟議制度については相当期間の実績を踏まえ実施されてきており、現状では満足いくものである。収入減が生じるようであれば、人件費や一般経費などの見直しを行い、至急の手立てを図ることで、授業運営上の不具合が生じないようにしている。予算は消費するものでなく、需要を創るという観点に立ち予算執行を行っている。税理士法人の公認会計士による監査は適時実施、会計監査は毎年度実施している。現預金・現金等価物・新規資産・固定資産とある中で、学校運営の基本となる現預金の動きを一番の強化事項として実施している。また、法律改正等を踏まえて、適正に判断されているかを確認するため、日々の監査がおろそかにならないよう学校会計基準との連携を図っている。私立学校法に基づく財務諸表の公開については、平成26年以降、私立学校法の規程に従い、ホームページで公開している。

基準9 法令等の遵守	自己評価					修正評価
9-40 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5	④	3	2	1	
9-41 個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	5	④	3	2	1	
9-42 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5	④	3	2	1	
9-43 自己点検・自己評価の結果を公開しているか	⑤	4	3	2	1	

総合事務局が法令遵守についての総合的な管理にあたっており、学校に関わる法令は多岐にわたるが、顧問弁護士と契約し、法解釈等、不明な事案は随時相談可能となっている。また、各種行政指導や所轄長からの通知などは、各部署に回覧し、周知するとともに、重要な案件については対応を協議している。平成17年4月に「プライバシーポリシー」、「個人情報の取扱いについて」を策定した。学内の体制としては「個人情報保護規則」を作成し、教職員に対して説明会を実施した。また、新採用の際と新年度に於ける講師契約の際は、「個人情報取扱いについての取り決め」を交わし、個人情報の漏洩、紛失、改ざんがなされないことを確認している。法人内にコンプライアンス委員会を設け、教職員が各種ハラスメント対策に対処しやすい職場環境を整えている。自己点検・自己評価は平成24年度から実施しており、毎年行う事で点検評価を改善に役立てていきたい。自己点検・自己評価結果については、学園ホームページで公開している。

基準10 社会貢献	自己評価					修正評価
10-44 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献を行なっているか	5	④	③	2	1	改悪
10-45 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	5	4	③	2	1	

なお、授業の一環としては、老人ホームや障害者施設などを訪れ、奉仕活動を行うことで、バリアフリーやユニバーサルデザインなどを意識させ、子供や高齢者、障害者などの社会的弱者救済が自然の行為として捉えられるよう取り組んでいる。山梨県と連携し、富士五湖自然首都圏フォーラム活動の一貫としてサミットを実施。選抜された学生チームがそれぞれのビジョンを首都圏自然フォーラム主催の発表し、最優秀賞チームのビジネスプランは実際に実施される予定。各地区での社会貢献に関わるビジネススキルアップのためのカリキュラム準備が課題。

学校関係者評価(評価対象年度:令和4年度/評価年度:令和5年度)

平成19年6月 学校教育法が一部改正され、学校評価に関する規定が新たに設けられました。本校に於いては、学校計画を立て教育活動を行って参りました。学校関係者や第三者からの評価を受ける体制はありませんでしたが、平成25年8月30日に文部科学省より『職業実践専門課程』の認定に関する規定が公布され、同日より施行されました。それを受け、企業・団体、卒業生や地域の方々の協力のもと、学校関係者評価を実施し、学校運営の改善と発展に努めています。これは、専門学校の専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的としております。

1. 学校関係者評価委員会

学校関係者委員

- 平田 章裕 氏 社団法人 福岡県洋菓子協会 副理事長／ロンポワン代表 欠席
- 後藤 大輔 氏 公認会計士／税理士法人アーク・パートナーズ代表
- 荻田 英二 氏 株式会社 荻田商業建築デザイン事務所 代表取締役
- 田中 誠二 氏 オリエンタルホテル福岡 総支配人
- 小川 倫恵子 氏 アミ・シュプール 代表
- 吉塚 正希 氏 株式会社 映像ボックス 代表取締役社長 欠席
- 福島 眞祐 氏 博多駅前3丁目2区自治会会長
- 藤 厚久 氏 福岡県 博多女子高等学校 教諭
- 庄部 兼司 氏 株式会社 Too エデュケーションアカウント部 ゼネラルマネジャー
- 溝江 多佳子 株式会社イクティス 代表取締役社長

学校教職員

- 藤 弥生 校長(九州デザイナー学院※現:福岡デザイナー・アカデミー)
- 稲實 洋祐 校長(九州ビジュアルアーツ)・(九州観光専門学校)  
(※現:福岡ビジュアルアーツ・アカデミー/福岡ホスピタリティ・アカデミー)
- 渡邊 恵未 校長(九州スクールオブビジネス※現:福岡ビジネス・アカデミー)
- 有海 慎祐 地区事務局長
- 西村 つかさ 事務長(九州デザイナー学院)・(九州観光専門学校)  
(※現:福岡デザイナー・アカデミー/福岡ホスピタリティ・アカデミー)
- 田中 稔 事務長(九州ビジュアルアーツ)・(九州スクール・オブ・ビジネス)  
(※現:福岡ビジュアルアーツ・アカデミー/福岡ビジネス・アカデミー)

2. 学校関係者評価について

評価ポイント ( 5・・・大変適切 4・・・適切 3・・・ほぼ適切 2・・・やや不適切 1・・・不適切 )  
( ⑤ → ④ は改善がはかれたとの評価 ④ → ③は改悪となったとの評価 )  
学校関係者評価の採点項目ごとの平均ポイントです

基準1 教育理念・目的・育成人材等	学校関係者評価					コメント
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	⑤	④	3	2	1	●学校名変更を機に改めて教育理念・ビジョンを明確にされている。 ●具体的な将来像の構成がよく考えられている
1-2 学校の特色は何か	⑤	④	3	2	1	
1-3 学校の将来構想を抱いているか	⑤	④	3	2	1	
基準2 学校運営	学校関係者評価					コメント
2-4 運営方針は定められているか	⑤	④	3	2	1	●評価委員会を通じて第三者(学校関係者委員)に情報開示していることが透明性につながっている ●学校運営については理解できたがm制度(賞金について)などはわからなかった
2-5 事業計画は定められているか	5	④	3	2	1	
2-6 運営方式や意思決定機能は、効率的なものになっているか	5	④	3	2	1	
2-7 人事や賞金での処遇に関する制度は整備されているか	5	④	3	2	1	
2-8 意思決定システムは確立されているか	5	④	3	2	1	
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5	④	3	2	1	

基準3 教育活動	学校関係者評価					コメント	
3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する 業界のニーズに向けて正しく方向づけされているか	5	④	3	2	1	●教員にも新たな方針や施策の意図を 明確にした上で共感し、ビジョンが浸透し ていくことを期待する ●新たな施策を具体化して展開されよう としていると感じる	
3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	5	④	③	2	1		
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	5	④	③	2	1		
3-13 各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けされているか	5	④	3	2	1		
3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが 実施されているか	5	⑤	④	3	2		1
3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	5	④	③	2	1		
3-16 教育目標に向け授業を行う事ができる要件を備えた教員を 確保しているか	5	④	③	2	1		
3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	5	④	③	2	1		
3-18 資格取得の指導体制はあるか	5	④	③	2	1		

基準4 教育成果	学校関係者評価					コメント
4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が 図られているか	5	④	③	2	1	●退学率という数字だけを軽減すること が目的にはなっておらず、退学のその先 の学生の人生をフォローする姿勢が見え たような気がした
4-20 資格取得率の向上が図られているか	5	4	③	2	1	
4-21 退学率の低減が図られているか	5	④	3	2	1	
4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	5	④	③	2	1	

基準5 学生支援	学校関係者評価					コメント
5-23 就職に関する体制は整備されている	5	④	3	2	1	●各方面の体制整備はされている ●専門職以外の一般企業への就職ルー トを開拓、斡旋実績などを積み重ねて学 校の強みに加われば、入学させる保護 者の安心につながるのではないかと 思う
5-24 学生相談に関する体制は整備されているか	5	④	3	2	1	
5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備できているか	5	④	③	2	1	
5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	5	④	③	2	1	
5-27 保護者と適切に提携しているか	5	4	③	2	1	
5-28 卒業生への支援体制はあるか	5	4	③	2	1	

基準6 教育環境	学校関係者評価					コメント
6-29 施設・設備は教育上必要性に十分対応できるよう整備されてい るか	5	④	3	2	1	●十分な予算を確保し、施設・設備など 学びの環境を準備している ●設備面では他の専門学校との差別化 ができにくい状況をどのようにアピールす るかが課題だと感じた ●教育指導する先生方や職員の方々の 働き方や教育に対する熱い思いなども外 へ向けたアピールポイントとして表現でき たら学生、保護者も安心するのではない かと思う
6-30 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育 体制を整備しているか	5	④	3	2	1	
6-31 防災に対する体制は整備されているか	5	④	3	2	1	

基準7 学生の募集と受け入れ	学校関係者評価					コメント
7-32 学生募集活動は、適正に行われているか	5	④	3	2	1	●高校などに対する募集活動がどう行われているか理解することができなかった ●募集時にアナウンスすべき就職に関するアピールポイントが必要と感じた
7-33 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	5	④	③	2	1	
7-34 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか	5	④	3	2	1	
7-35 学納金は妥当なものとなっているか	5	④	③	2	1	

基準8 財務	学校関係者評価					コメント
8-36 中長期的に学校の財務基盤は安定しているものといえるか	5	④	3	2	1	●人件費について、数字だけの報告でなく、目的を含めた引き上げの説明もあり、透明性のある運営ができていると感じた
8-37 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5	④	3	2	1	
8-38 財務について会計監査が適正に行なわれているか	⑤	④	3	2	1	
8-39 財務情報公開の体制整備はできているか	⑤	④	3	2	1	

基準9 法令等の遵守	学校関係者評価					コメント
9-40 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5	④	3	2	1	●長らく、評価委員会を実施されていることこそ自己点検であり、社会へ適正な学校運営を目指す表れだと感じた
9-41 個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	5	④	3	2	1	
9-42 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5	④	3	2	1	
9-43 自己点検・自己評価の結果を公開しているか	5	④	3	2	1	

基準10 社会貢献	学校関係者評価					コメント
10-44 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献を行なっているか	5	④	③	2	1	●具体的な内容がわからなかった
10-45 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	5	④	③	2	1	



(10) 事業報告・その他

《 事業報告書 》

令和6年3月31日

- コロナウイルス5類への移行  
5月にコロナウイルス5類への移行を受け、リモート授業から対面授業への移行を行い、学内イベントにおいても来校を促進できる環境となった。
- 学生募集状況  
県内、県外の説明会の開催も徐々に復活し、リモートだけではなく、対面での学生募集が可能となった。体験入学においては、リモートと対面の両方の募集活動を駆使し実施。学校名の変更や学園の教育理念を説明会や体験入学で行うことにより、学園の方針を理解いただけたようである。4校での合計入学者は昨年度よりマイナスとなったが、ビジネス系、観光系の学生数は増加している。
- 設備投資  
法令遵守に則り、館内の教室整備を過年度計画で実施。就職活動などはコロナ移行もリモート面接などが取り入れられているため、リモート面接に使用できるブースの設置などを行った。学生増加が見られた放送・映画学科、CG映像学科の撮影機材の導入をおこなった。昨年同様に設備工事のための部材などがコロナ影響により遅れることもあった。
- 業界EXPO開催  
昨年度はコロナ禍であり、リモートを中心とした学内開催のイベントに変更したが、リモートと対面の両方にて実施が可能となった。全国姉妹校間での系統別開催となり、多くの企業にご出席いただくことができた。
- アメリカに語学堂を設立、韓国の大学との提携  
昨年に引き続きアメリカ、韓国の提携大学への長期・短期留学が実施された。なお、新年度には更に留学先を増やし、積極的に取り組む動きが出てきている。
  
- 福岡デザイナー・アカデミー（旧：九州デザイナー学院）  
産学連携の強化。（職業実践専門課程）  
博多まちづくり協議会と連携し、イベント一部を実施。また、県内の企業へ向け、学生作品を展示し、直接意見を問われることができるデザイナーズマーケットを実施。学生のポートフォリオ向上へつなげる。
  
- 福岡ビジュアルアーツ・アカデミー（旧：九州ビジュアルアーツ）  
「社会人としての常識」を学ぶ新たな動画教材を導入。就職を意識させるカリキュラムとなっている。  
県内の音楽イベント等の実施機会も増え、実践授業にも積極的に出席。  
学内イベントの実施も可能となり、学校施設を利用したイベントの企画、運営を行なった。
  
- 福岡ビジネス・アカデミー（旧：九州スクール・オブ・ビジネス）  
愛玩動物看護師の国家試験開始、H27年度以降の卒業生の受験が開始となった。  
入学検討者のニーズに合わせ、入学定員数の変更を行なった。  
今後も環境の変化に伴った学校運営を行うため、学科の募集停止や定員数の変更を行う予定。
  
- 福岡ホスピタリティ・アカデミー（旧：九州観光専門学校）  
韓国語学科においては、卒業生が提携大学へ進学。コロナ明けに伴い業界就職率の向上が測られた。  
業界内だけの知識に留まらず、映像編集や動画撮影などのカリキュラムも導入。  
全国系統姉妹校間で学生のスキルアップ向上のため、コンテスを実施し、優秀な成績を収めている。

《 職業実戦専門課程認定学科 》

職業実践専門課程における認定学科一覧

- 福岡デザイナー・アカデミー  
(旧：九州デザイナー学院)  
グラフィックデザイン学科  
インテリアデザイン学科  
イラストレーション学科  
ゲーム・CG学科  
マンガ学科
- 福岡ビジュアルアーツ・アカデミー  
(旧：九州ビジュアルアーツ)  
写真学科  
放送・映画学科  
CG映像学科  
音響学科  
声優学科  
俳優学科
- 福岡ビジネス・アカデミー  
(旧：九州スクール・オブ・ビジネス)  
ビューティービジネス学科  
ペットビジネス学科  
フラワービジネス学科
- 福岡ホスピタリティ・アカデミー  
(旧：九州観光専門学校)  
ブライダル学科  
エアライン学科  
フードクリエイティブ学科 (旧：スイーツ&カフェ学科)  
(※令和6年4月1日より学科名変更)  
ホテル学科  
鉄道サービス学科

以上 4校 19学科

《 理事・役員名簿 》

令和6年6月現在 (定員数 理事10名 監事2名)

理事長	田坂	広志
理事	植田	宏美
理事	高橋	奈帆
理事	齊藤	浩一
理事	長尾	大樹
理事	木村	新太郎
理事	南野	想
理事	稲場	央人
理事	加藤	尚美
理事	鴨志田	晃
監事	高野	善生
監事	西村	実